



巻頭特集

立命館大学の国際化

2017年度
春号

■会員の住所変更について

本誌は、学生が学部へ届け出ている保証人住所宛に送付しています。保証人住所を変更される場合は学生本人による手続きが必要です。

学びステーションまで学生証を持参の上、手続きするようお願いいたします。

※最近、立命館や関係団等の名刺を利用した悪質なビジネス等が横行しております。父母教育後援会は、会員の照会を学生には一切行っておりませんので、くれぐれもご注意ください。

父母教育後援会ホームページのご案内

<http://www.ritsumeai-fubo.com>

立命館大学のホームページからは…
「保護者の方」をクリック



立命館大学父母教育後援会だより 2017年度 春号

2017年3月発行 立命館大学父母教育後援会

〒604-8520 京都市中京区西ノ京朱雀町1 Tel.075-813-8261 Fax.075-813-8262

立命館大学
父母教育後援会だより

Parents Association of Student Education Assistance Newsletter



巻頭特集

立命館大学の 国際化

P3.....

P10... セミナール訪問

P14... 蘇った女王の走り
～立命館大学女子陸上競技部～

P16... 部活動&サークル Watching

P18... 知への扉
～vol.3 総合心理学部 北岡 明佳教授～

P20... AEDが守った
学生の命

P21... 卒業生からの手紙<一通目>

P22... 京都水紀行①

P23... アンケートより

News 古代文字・白川フォントを無料公開

私たちが使っている漢字は、今から約3300年前の中国・商（殷）王朝の時代に形作られたものがもとになっています。現在発見されている最も古いものは、亀の腹甲や獣骨に彫られたもので、王が神に問いかけを行った占いの内容を記録した「甲骨文」と呼ばれるものです。後（約3000年前）の周王朝の時代になると、青銅器に文字が鋳込まれるようになりました。これを「金文」といいます。さらに時代が下る（約2500年前）と、竹や木の板（後に紙）に筆で書くことが主流となり、より洗練された「篆文」と呼ばれる文字に変化していきました。これらの文字を「古代文字」といいます。私たちが使っているのは「楷書」という形で、約1700年前に完成したと考えられています。立命館大学出身の文化勲章受章者である故・白川静先生は、古代文字などを手がかりに東アジアの思想・文化の源流を解明する研究成果を打ち立てました。

立命館大学白川静記念東洋文字文化研究所を中心とする「白川フォント」研究プロジェクトでは、これまでコンピューター上での利用が困難であった古代文字を、Microsoft Word などの一般的な文書作成ソフトで簡単に利用できるようにする文字フォントの研究開発を行い、この度ver.1をフリーフォントとして公開いたしました。白川文字学に関わる研究や漢字教育などに広く活用されることを期待しています。

※このプロジェクトは、三菱財団社会福祉事業の研究助成による研究成果です。

webサイト：<http://www.ritsumei.ac.jp/acd/re/k-rsc/sio/>
から<白川フォント>のボタンをクリックしていただくと、ダウンロードページがございます。



甲骨 約3300年前



金文 約3000年前



篆文 約2200年前

立命館大学の 国際化

立命館大学は文部科学省<スーパーグローバル大学創生支援>事業の採択をうけ、国際化に向けた取り組みを続けています。その中のユニークな取り組みについて、学生たちと留学生の交流生活などを混じえながらお伝えします。



2年間に2週の留学 日中韓で学ぶキャンパスアジア

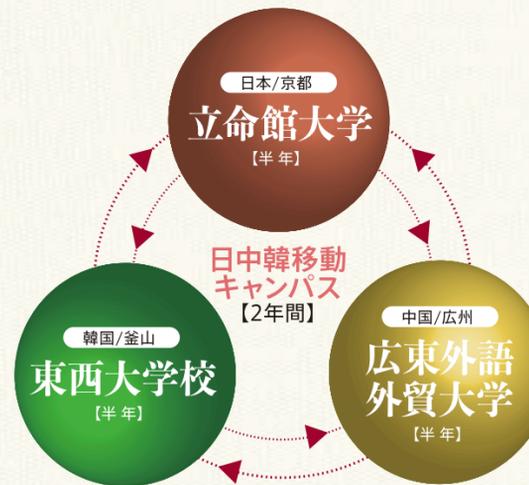
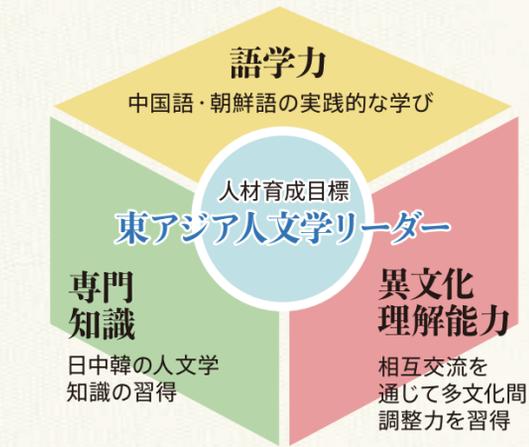
キャンパスアジア・プログラムは、文部科学省平成28年度大学の世界展開力強化事業（タイプA-1：キャンパス・アジア（CA）事業の推進）に採択され、平成23年度同事業の最終評価では最高評価「S」を獲得し、各国の教育機関や企業から、先進的な国際プログラムとして注目を集めています。

注目の集まる東アジアで活躍する 次世代のリーダーを目指して

立命館大学の留学プログラムは、世界67カ国の438カ所の機関と連携しており、充実した内容で知られていますが、その中でもキャンパスアジア・プログラムは特徴的。留学は一般的に1カ国1大学で学びますが、本プログラムの学生たちは立命館大学（日本/京都）、東西大学校（韓国/釜山）、広東外語外貿大学（中国/広州）と3カ国で学びの場を移動し、知識を深めていくユニークなもの。これは21世紀に入り、より注目度が高まる東アジアにおいて、各国間に横たわる様々な問題を文化・社会・歴史の見地から解決できるリーダーを育成することを目標としています。参加学生たちが卒業後も交流を続け、次世代ネットワークの形成ができるように、様々な工夫が凝らされた留学プログラムが運営されています。

1グループが3大学のキャンパスを 2年間で2周する

本プログラムの最大の特徴は、2・3回生時の2年間で3カ国の間を2周する「移動キャンパス」（日本学生の場合は中国・韓国に留学）に参加し、現地の言葉で現地の語学科目と人文科目を学ぶこと。各大学で選抜された20名（計60名）のキャンパスアジア・プログラム生（以下CAP生）は、約10週間ずつ3カ国の大学に滞在し移動するため、各大学に2度留学する仕組みです。このユニークなプログラムにより、学生たちは2周目には1周目の経験を振り返り、新たな気づきを得ることができ、より深く課題に取り組むことが可能になります。こうした革新的なプログラムが評価され、文部科学省による最終評価では、平成26年度の間評価に続き、S評価（最高評価）を獲得しています。



立命館大CAP生の4年間

選抜	AO入試（中国語・朝鮮語/キャンパスアジア）等実施、入学前募集による選抜
1回生	語学：留学のための中国語・朝鮮語を集中的に習得 演習：異文化理解力、リテラシー能力の伸長 専門：東アジア人文学の基礎知識を固める
2回生	（韓国学期）：朝鮮語（教養講義対応）、演習、韓国基礎研究 （中国学期）：中国語（教養講義対応）、演習、中国基礎研究
3回生	（韓国学期）：朝鮮語（専門講義対応）、人文学専門講義、卒業演習、海外インターンシップ （中国学期）：中国語（専門講義対応）、人文学専門講義、卒業演習、海外インターンシップ
4回生	卒業論文執筆/就職活動
進学・就職	外資系企業・マスコミ・サービス・金融 日本語教員・大学院

「移動キャンパス」に向けた 1回生時の派遣前教育

このプログラムは文学部の学生を対象としており、4年間かけて国際人としての語学力・教養力・異文化理解力を身につけるものです。そのため、参加を希望する学生は、入学前に参加の意志を決定し、入学前募集に応募する必要があります。選出された20名が1クラスとなり、1回生で留学に必要な中国語・朝鮮語や日中韓の基礎的な人文学について学び、2回生・3回生で中国と韓国へ留学します。現地では、中国や韓国のCAP生と共に生活をするため、常に日本・中国・韓国の言語や文化に触れることになります。取材当日の演習でも、「韓流の影響とは」など韓国と日本の関わりについて掘り下げた発表が行われていました。こうして、留学当日までに中国・韓国への理解を深めながら、日本について語る知識を蓄え、海外で学生たちと論じ合える力を養っていきます。

移動キャンパススケジュール<2・3年次>

	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月
立命館大学生			東西大へ10名・広東外大へ10名			集中講義			東西大へ10名・広東外大へ10名			集中講義
他大学生									立命館大へ20名・（東西大10名広東外大10名）			立命館大へ20名・（東西大10名広東外大10名）



廣澤 裕介
文学部 准教授

他文化にもまれ共生 することで成長する

「学生たちは例えば日本にいる時はマジョリティ、中国にいる時は韓国人学生と共にマイノリティの立場を経験することができます。これは相互理解を促すことにも効果的。また、半年ごとに国を移動し、反復学習することも学生たちの語学力のレベルアップや研究の深化に役立っています」と、プログラム・マネージャーの廣澤准教授は、日中韓のプログラム教員と連携を取りながら、CAP生の留学をサポートしています。



小林 茂さん
文学部 2回生

プログラムに参加中

語学習得+αの 学びを求めて

「アジアに興味があり、語学習得と文化などを深く学ぶためにどこへ進学しようかと考えていた時、プログラムを知りました」と、入試前に開催されたプログラム説明会に参加し、立命館大学受験を決めたという小林さん。「1つの国だけでなく、3カ国で学び学生と交流できるので、包括的に語学や文化に触れられ、より深い理解と研究ができると思います」と、今から留学を心待ちにしています。

キャンパスが世界につながる

立命館大学では英語力を身につけ、英語で思考し語り合い、世界で活躍できる人材を育成するために、国際教養科目を設置。それぞれの学生たちの目標や目的に合った学びの機会を提供しています。また、国際寮では本学に留学する外国人留学生たちが、多くの学生との交流を通じて日本への理解を深めています。



英語で学び合う充実した国際教養科目

立命館大学では総合大学の強みを活かして、様々な学問分野に渡る約110科目・約750クラスの教養科目を開講しています。2016年度より英語や初修外国語で授業を行う「国際教養科目」の刷新を図り、留学生と一緒にキャンパス内で学び合える共修科目が充実しました。具体的には、担当教員の専門性を踏まえたテーマについて少人数の演習形式で学ぶ科目、異文化間コミュニケーションや他者理解を学ぶ科目、留学に向けたアカデミック・スキルを磨く科目などがあり、

1回生から自分の語学運用能力や学びの到達度に合わせて受講できます。受講生からは「文化や習慣、考え方の違いに触れ、毎回新しい発見があった」「以前より自分の意見を積極的に伝えられるようになった」「英字新聞を読んだり、留学に興味を持つようになった」という感想が聞かれました。多くの学生が「国際教養科目」にチャレンジし、学部や回生、出身国・地域などが違う学生たちと出会い学び合うことを通じて、自分自身の可能性を拓けています。



訪問
しました

学生たちのネットワークが育まれる国際寮

インターナショナルハウス常盤

アットホームな雰囲気イベントを通じて交流も
福井さんたちレジデントメンター3名のほか、50名が暮らすインターナショナルハウス常盤。鍋料理を囲んだり寮生の誕生日を祝うなど、数人集まればちょっとしたパーティ状態で和やかな雰囲気に。うまく共同生活を送るため、ルールを守り暮らしています。



レジデント
メンター
が活躍



福井 康平さん
国際関係学部 4年生

スウェーデン留学から帰国後、英語力を養い留学生の役に立ちたいとレジデントメンターに。「留学生の友人でありルールを守るためのリーダーでもあるので、関わり方に気を配っています。役所での手続きに付き添うと意外と自分でも知らない日本のシステムを理解したり、学ぶことも多いです」。

インターナショナルハウス大將軍

2015年完成の最新の国際寮



衣笠キャンパス近くに完成したインターナショナルハウス大將軍は、大きなキッチンなども完備し195名の学生や研究者の受け入れが可能。既存のインターナショナルハウス常盤、インターナショナルハウス宇多野と合わせ、合計275名が滞在できる体制が整いました。

海外で学ぶ&日本で学ぶ

毎年、立命館大学からは約1,700名の学生が学びの場を広げるために、海外留学を経験しているほか、海外から本学へ留学してくる学生も増えています。そんな留学経験者たちが異文化での学びの魅力について語ってくれました。

・松本小夜子さん



イギリスで知った
ケルト文学の世界に
ひかれました

文学部 英米文学専攻 4回生
イギリス・エディンバラ大学交換留学

・ジャン・ランイエンさん



日本だから学べた
様々な世界の
視点が面白い

国際関係学部
グローバルスタディーズ専攻 4回生

Q 留学を決めた理由は何ですか？

A 私は立命館高校に通っていた頃から留学を希望していたので、大学に入ってから、留学希望者に向けて実施されている授業を活用し、1回生から留学準備を始めました。留学に向けて、語学力のアップだけでなく、留学先大学の情報収集や必要書類を揃えるなど、様々な準備が必要になります。やるべきことが多く大変でしたが、わからないことや困ったことがあった際には国際教育センターと相談しながら進めることができました。数多くある交換留学先の中で、私がエディンバラ大学を選んだ理由は、自身の専攻である英米文学と関連のあるイギリスに興味があり、イギリスで英米文学を学びたかったからです。また、エディンバラ大学周辺は比較的治安も良く、自然豊かな環境で学ぶことができました。

Q 留学から何を学び、どんな目標ができましたか？

A 行ってみたいと分からないことがたくさんあると実感しました。英米文学は翻訳本もありますが、日本語に訳せない言葉もあり、微妙なニュアンスが分からないこともあります。それが現地で理解でき、とても有意義でした。立命館大学ではスコットランド文学を学んでいましたが、イギリスでケルト文学に触れられたのがとても嬉しかったです。日本で持っていたイメージとは違い、もっと深く学ぶことができたのは留学したからこそ。留学で特別英語力が向上した実感はありませんが、書く力は格段にアップして表現できることが楽しかったです。初めての一人暮らしが、いきなり海外でスタートしたので寂しくて戸惑うことも多かったけれど、自分から働きかけて少しオープンな性格になれたのも、留学して良かったことかもしれません。次は大学院へ進み、さらに深く研究したいと思っています。

Q 留学を決めた理由は何ですか？

A 子供の頃から日本のアニメやドラマが好きで見ましたが、中国語の吹き替えが嫌いで、中学3年生の時に日本語の勉強を始めました。知人に日本へ留学した人がいて、話を聞くと絶対留学したいと思っていました。日本の教育システムなどに詳しい人がいて、その方から立命館大学を勧められたのですが、中国でも立命館大学は高く評価されているんです。私は日本語をマスターしたいのはもちろんですが、言語はあくまで伝達のツール。一番の目的は、日本語でいろいろな立場の教授の講義を聞き、ニュートラルな視点で学べる日本に留学したかったんです。そういうことは中国では難しいので、留学して良かったと考えています。立命館大学では約20名のクラスに在籍していますが、10カ国近い国々から集まった学生と学んでいます。この環境も気に入っている理由の一つです。

Q 留学から何を学び、どんな目標ができましたか？

A 高校時代は国際政治や経営学に興味があり、外国語を勉強して他国の国際関係を学びたいと考えようになりました。留学すれば文化背景の違う教授や学生と出会えるので、いろいろな学びが得られることが魅力です。立命館大学で学ぶうちに、貧困と開発問題の研究に興味を湧いてきたので、京都市役所の国際化推進室で研修をしたり、カンボジアへボランティアへ出かけたりもしました。大学の中での勉強だけでなく課外でも充実した生活が送れています。なかなか、母国へ帰省しないので両親からは叱られているのが悩みの種ですが…。将来はイギリスやアメリカの大学院に進んで、アフリカで貧困や開発問題に取り組むことが夢です。大学の勉強以外では、京都各地に出かけ、趣味でもある写真をたくさん撮影しながら良い思い出を作っています。日本の中でも京都は本当に美しいと感じています。

びわこくさつキャンパス
スポーツ健康科学部

橋本 健志ゼミ



ゼミ生 voice

幸福な人生のために アンチエイジングのその先へ

塚本 敏人さん

運動によって、脳機能が高まる仕組みの解明とその応用を目指して研究活動に取り組んでいます。

阪本 しおりさん

サプリメントの会社に就職が決まり、研究で培った専門性を活かして健康増進のためのサプリメント開発したい。

吉川 万紀さん

サルコペニア肥満効果に関する研究を通し、関連する疾病を機能性食品と運動の併用で予防していきたいです。

武中 沙葵さん

認知機能について研究をしています。今後は、健康の維持増進に貢献していきたいと考えています。

青山 耕也さん

短期間のクレアチン摂取が跳躍選手の運動パフォーマンスに及ぼす影響をテーマに取り組みました。

大岡 明穂さん

運動の愛情ホルモン分泌効果について取り組みました。スポーツ科学をもっと広めたいです。

大崎 智彦さん

ゼミの活動にて低酸素と筋肥大の関係性を解析しました。本学での経験を世間に還元できる人材を目指します。

竹中 仁志さん

カロテノイドの脂肪抑制効果に関する研究に取り組みました。将来、この経験を活かして頑張ります。

平野 義恭さん

認知機能に対するココアフラバノールの効果を研究しました。今後、人々の健康増進に関わってきたいです。

藤原 萌愛さん

筋力トレーニングに興味があり、卒業研究ではフィットネスクラブで行われている筋力系スタジオレッスンについて研究しました。

矢守 翔太さん

乳酸に興味を持ち、脳における乳酸と認知機能の関係性に関して有意義な研究ができました。

若松 陸さん

ケルセチン配糖体が発症性筋肉痛に及ぼす影響について取り組みました。健康的な運動の普及に貢献したいです。

井上 駆さん

陸上競技をテーマに取り組み、選手としてスキルアップして将来はオリンピックに出場することが目標です。

宇津木 遥さん

ゼミではロコモティブシンドロームについて研究し、将来は国民の健康維持に貢献できる仕事に就きたい。

柏崎 康一さん

乳酸が認知能にどのような影響を与えているのかについて研究中。将来は健康に携わる職に就き社会貢献したい。

久米 航さん

ゼミではトレーニングによる骨格筋肥大について研究予定。将来は研究職に就くために大学院に進学したい。

作島 弘起さん

陸上競技短距離走の競技力向上をテーマに取り組み、骨格筋細胞の培養にも挑戦してみようと思います。

佐藤 祐也さん

玉ねぎなどの食品に含まれる機能的な素材の効果に関する研究を予定。将来は医療の発展に貢献したい。

野澤 知廣さん

研究テーマはスロートレーニングと茶カテキン摂取による認知機能の亢進。将来は人の役に立つことをしたい。

服部 拓真さん

スロートレーニングと茶カテキン摂取の併用が抗酸化作用に及ぼす影響について研究する予定です。

松成 由貴さん

女性アスリートに着目し、月経周期を考慮したパフォーマンス向上のための研究を行いたい。

健康で質の良い生活を目指す サプリメントを開発中

橋本先生の夢は宇宙飛行士だったそうです。「その夢は叶いませんでしたが、無重力状態では筋肉が痩せてしまうので、それを解消するための研究を京都大学でしていました」。さらに、スポーツ好きゆえ人体に興味を持ち、現在は<アクティブエイジング>を研究。アンチエイジングは加齢による身体の機能的な老化を、可能な限り抑えることを意味しますが、橋本先生はさらにその一歩先である<アクティブエイジング>と言う、老化の過程でより健康的に過ごすための研究を行っています。「筋肉が正常に動かせないと運動不足になり、生活習慣病などの原因にもなります。健康で質の良い生活に筋肉は欠かせないと言えます。現在、3件の特許を申請中で、その中に筋肉をつける助けとなるサプリメントがあるのですが、これは乳酸の動きの研究の成果です。乳酸は筋肉痛の原因で疲労物質と言われてきましたが、実は違ったのです。筋肉量を保持して脂肪を減らす働きがあり、学生たちと協力して乳酸をベースにしたサプリメントを開発しました」。



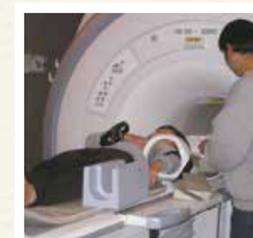
橋本 健志 はしもと たけし
スポーツ健康科学部 准教授

1999年京都大学・総合人間学部・自然環境学科卒業後、京都大学大学院・人間・環境学科研究博士課程終了。2010年より立命館大学にて教鞭をとる。<運動が身体に良いメカニズムを分子レベルから探り臨床応用に繋げる>研究を行っている。



細胞からヒトまで、 ミクロからマクロな研究を展開

橋本ゼミでは運動だけでなく、サプリメントなどの栄養処方を補助的に施すことで、より効果的かつ効率的に肥満を解消したり、筋肉の萎縮を防いだり、認知機能を高めたりする方法を研究開発しています。<アクティブエイジング>は、いわば人生の幸福の土台を造るものなのです。そのため、学生たちの研究発表にも親世代が気になるキーワードが続々と登場。例えば、高齢者の認知症問題を取り上げ、認知機能の向上に役立つココアフラバノールを使った研究を行う学生など、実際に「製品化されたら飲んでみたい」と思うものも。アスリートでもある学生も多く、<カフェインが投球フォームのパフォーマンス向上に影響するか>や、<部分痩せは可能か(何と3ヶ月の検証の結果、可能であるという実験結果が出ています)>など、体を使いながら地道なデータ収集も行っています。こうした研究データ収集には、大学が完備する機器が役立っており、研究環境が良いことも学生たちの学びを支えています。



大学の充実した設備を利用し、データを収集する学生たち。アスリートが多く在籍するスポーツ健康科学部らしく、運動に関するデータも自ら試験するなど意欲的に取り組んでいる姿が印象的。

びわこ・くさつキャンパス
情報理工学部

野間 春生ゼミ



メディアの力で社会を変えていく

ゼミ生 voice

Edgar Handyさん

ゲーム環境を利用して、エンターテインメント用の対戦AIを研究しています。プレイヤーの行動を学習・研究し、より楽しいエンターテインメントを提供します。

西本 騰さん

医療現場においてIT技術を活かすための研究を行っています。医療の高度化が進んでいる今、非常にやりがいのある研究だと思います。

田村 香都さん

配属前にやりたいことがなくても、それを見つけた時にできそうな幅広い分野を研究できる研究室を選びました。

垣花 明紀さん

災害時の救助チーム間での情報伝達システムに関する研究を行っていました。今後は医療に関する研究を行っていきたくと思っています。

内藤 拓海さん

VRやHCIに興味があり、現在は車載カメラを掛け合わせ、車の窓をタッチスクリーンにするようなインタラクションを研究する予定です。

黄 亭溢さん

如実に自分の仮想の世界を見ることが出来る。日本で学ぶ理由は、先進国と技術を自由に交流でき、私の夢を実現することができるからです。

岡田 侑真さん

やりたいこと、研究したいことは決まっていますが、この研究室で自分を高めることができたいと思います。

岡 大我さん

画像認識の研究の一環として、歩数計の画像から数値を読み取るアプリの開発中。運動を手間だと思っている人の意識を変えたいと思います。

河合 俊樹さん

幅広い研究テーマを扱い、興味のあるトピックの研究がしたい場合、すぐに対応してくれ、相談しやすい研究室です。そのため、志望しました。

中村 雄哉さん

インターネット企業に就職が決まりました。大学で学んだ技術や知識を応用し、インターネットの力で社会の課題を解決していきたいと思っています。

柴田 太一さん

情報技術の専門性だけでなく、自ら行動して新たな技術や世界を広げられる積極性を身につけることができます。研究活動とともにマルチタスクな力をより伸ばしたい。

大槻 涼さん

グループの効果による人の運動意欲向上を目指して研究をしています。これからは様々な歩行に作用する要素を解析し、より効果的な働きかけを行っていきます。

伊賀 尚美さん

ゲームの要素を用いて人の行動を変え、日常生活における困り事を解決する研究を行っています。BLE機器により人々の行動経路などを取得し、行動を分析しています。

檜原 雅広さん

実社会の問題に注目し、それを解決するための研究を行うことができます。実践的な課題に取り組むことで、自身の見聞を広めることができると考え、本研究室を選びました。

木村 樹里さん

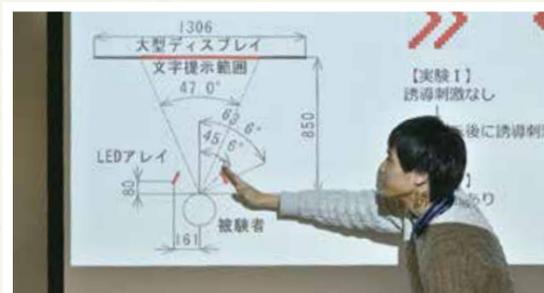
社会の問題を少しでも解決できるような研究をしていきたいです。将来は、大学で得た知識と経験を活かしてIT関係の仕事に就きたいと思っています。

内山 元晴さん

VRを利用した、野球におけるバッティング能力の向上を目指す研究を行っています。スポーツ界に情報技術の活用を広げていきたいです。

最先端技術を駆使する MxD lab.とは？

<MxD lab.>とは、野間教授の率いるMedia Experience Design研究室のこと。野間教授の専門である、メディアを応用した日常生活の向上に関する研究を行っています。「何だか格好いいでしょ?何だろう、格好いいと思わせることも、学生たちの興味を引くポイント。ふざけているみたいに思われるかもしれませんが、これは真面目に考えた名前です」。研究内容に興味を持ってもらいたいと願う教授ならではの発想です。ゼミではバーチャルリアリティまたはVRなどの最先端技術を用いて、医療、教育、娯楽などにおける様々なシーンにおける問題を、メディアの力で解決する研究が行われています。特にバーチャルリアリティに関する技術は、野間教授が学生時代に研究が進み始め、この分野は比較的新しい学問だそう。そうした中で野間ゼミは、最先端の技術を駆使して研究を行う新しい研究室と言えるでしょう。「コンピューターなどの最先端技術を使いますが、一番面白いのは<人>です。人に役立つものを作るためには、人を知ること。だから人といかに関わるかも、システムなどの開発に影響します。技術はもちろんですが、人との関係に関しても学生たち学んでもらいたい」。



研究室はアットホームで暖やかな雰囲気ですが、ゼミの発表では、野間教授だけでなく同研究室の松村耕平助教とロベス・ロベルト准教授からも厳しい意見や指摘が飛び交います。取材当日は、研究発表のほか、他者が発表した論文の検証も行われており、学生たちが常に新しい技術やテーマに挑んでいることを実感します。

ある日の
野間 春生
ゼミ



野間 春生 のまはるお
情報理工学部 メディア情報学科 教授

筑波大学・第三学群・基礎工学類・構造工学専攻卒業し、筑波大学大学院博士課程・工学研究科・構造工学専攻。日本バーチャルリアリティ学会などに所属し、メディアを応用した日常生活の向上に関する研究や、MEMS技術を用いた超小型触覚センサの開発を行っている。



野間教授たちも参加した<みんなで一緒に ながま健康ウォーク>。「チームで参加するものだから、私が怠けると迷惑がかかるいわば連帯責任システム。これも歩く意欲を高める工夫です。こうしたアイデアはコンピューターにはない、人を理解することで生まれる発想です」。

問題や悩みを メディアの力で解決

学生たちの発表や研究を目にすると、センサーやロボットまで多岐にわたる内容で、一見難解で通常生活とは無縁に思えますが、それらが形になったものはまさに実用的。例えば、「運動嫌いな人に運動をさせるにはどうすればいいか?」と言う長浜市との取り組みでは、5人でチームを組み、10日間で総計200kmをウォーキングするイベント<みんなで一緒にながま健康ウォーク>を開催。メディアにはスマホを利用し、学生たちがシステムを開発して、イベントの運営に携わり、自動的に運動量を計測し、運動量の可視化により参加者は歩くことに意欲を持つことが可能に。「このイベントの参加費で抽選会を行い、商品が当たるというオマケ付き。完歩した人には認定証を発行するなど好評で、約1,000人が参加しました」。他にも、ニューヨークにいる人にバーチャル技術を使って茶道練習ができるシステムや、災害時の通信システム支援ツールなど、人に役立ついろいろなツールが研究されており、最先端技術が人に優しいものに感じられます。

祝・4連覇
全日本大学女子選抜駅伝

蘇った女王の走り。 悩んだからこそ勝ち取れた 新たな強さと勝利の秘密。

2016年12月30日、静岡県富士山麓で行われた全日本大学女子選抜駅伝（富士山女子駅伝）で、見事4連覇を果たした立命館大学女子陸上競技部。この4連覇は彼女たちにとって、特別な勝利であり、新しい強さを見つけた瞬間でもありました。



- | | |
|-------------------------|--------------------------|
| 1区：佐藤成葉選手（経済学部1回生） | 5区：和田優香里選手（スポーツ健康科学部3回生） |
| 2区：菅野七虹選手（経済学部4回生） | 6区：園田聖子選手（経済学部4回生） |
| 3区：大森菜月選手（スポーツ健康科学部4回生） | 7区：松本彩花選手（スポーツ健康科学部3回生） |
| 4区：池内彩乃選手（経済学部4回生） | |
- ※回生は「富士山女子駅伝」当時



「写真提供／月刊陸上競技」

トラブルに泣いた悔しさと 苦しみからの教訓

十倉コーチの指導のもと、今や<女王>とまで言われる強さを誇る立命館大学女子陸上競技部。2016年10月30日に開催された大学女子駅伝の日本一を争う<第34回全日本大学女子駅伝対校選手権大会・杜の都駅伝>は、史上初の6連覇がかかった大会でしたが惜しくも2位となりました。実はこの時、選手たちの多くがケガなどに見舞われ、ベストコンディションで臨むことができていませんでした。2016年度はケガをする選手も多かったため、ベストなオーダー（走行するメンバー表）を組めず、全日本大学女子選抜駅伝で選出される10名（うち実際に走るのは6名）のうちベストコンディションと言えたのは2名でした。こんな状態は珍しく、とても苦しい中での競技を余儀なくされました。そんな彼女たちを見守っていた十倉コーチは、「勝利を自分たちの代で絶やしてはいけないという思いが強く、勝つことが伝統になった。目標は追いかけるものであって、追い立てられてはいけないと思います。自分たちのチームが一番、走って良かったと思う学生らしい駅伝に戻ろう」と、新しい取り組みを選手たちに提案しました。

自主性と信頼を糧に 富士山麓で雪辱を果たす

その新しい取り組みは、十倉コーチだけでオーダーを決めるのではなく、選手各自がベストオーダーを提出し、意見を取り入れるというものでした。そうして迎えた全日本大学女子選抜駅伝でしたが、選出される12名（走行するのはうち7名）のうちベストコンディションは4名という事態に。しかも大会前日にオーダーが変更され、当初6区を走る予定の松本さんが7区と入れ替わりアンカーに初挑戦することになりました。その上、全国大会規模の駅伝は初参加。そんな異例のオーダーでも信頼し合って走り切り、見事4連覇を勝ち取れたのは、選手たちが自ら考えお互いを観察することで強さが増したからだと言えます。初めての体験ばかりの松本さんでしたが、周囲は「当初の7区に指名された選手は去年も走っていて辛い場所を記憶している。経験のない松本さんの方が思い込みなく走れるかもしれない」「ミーティングで松本さんを7区に推薦した選手もいた」と冷静に見ていました。「自分でオーダーを考えるからこそ、どこをどう走りたいか考えるし練習への意識も変わった」など、新オーダー方式が功を奏し強さが増したと感じさせる彼女たち。今年の大会もぜひ皆さんも応援してください。

部活動&サークル Watching vol.10

体育会ラグビー部



日本代表メンバーも輩出する強豪

約100名在籍する中でスタメンは15名と、選手たちは部内でも厳しい競争を勝ち抜かねばなりません。それだけに意識やレベルは高く、昨年行われた「ワールドラグビーパシフィック・チャレンジ2016」に、ジュニア・ジャパンのメンバーとして3名の部員が選出されており、山口さんもその一人。「前は関西リーグ5位だったので、今年は関西制覇を目指して頑張ります」と、目下春季大会に向けて練習中です。



同志社大学や京都産業大学など関西大学リーグでの活躍を誇っています。



山口 匠さん
ウィング
経済学部3年生

試合予定や結果がチェックできます
<http://www.ritsumeirugby.com>



学園祭など大学のイベントでも活躍。派手なパフォーマンスもあり、ステージが盛り上がる。



木村 元さん
部長
経営学部3年生

演奏会などの予定はWEBサイトでチェックできます。
<http://www.peace-music.sakura.ne.jp>

Free Music Circle PEACE



パフォーマンスも見所の一つ

音楽系サークルの中でも在籍メンバーは約100名と大規模。「ジャンルに制限がなく、いろいろなことにチャレンジできる」と木村さん。さらに、ダンスなどを取り入れたパフォーマンスもあり、表現に広がりがあるのも魅力だそう。決まったメンバーで演奏するのではなく、曲ごとに編成が変わり、サークル内で競い合うのもユニークなところです。5月半ばには演奏会が予定されているので、機会があればぜひ聴いてみてください。

立命館大学には多くのクラブやサークルがあり、優秀な成績を収めている学生たちも多く、日々切磋琢磨しています。そうした学生たちの今の目標や希望を、代表が語ってくれました。



草津天文研究会



夏は絶好の天体観測シーズン

約40名のメンバーが在籍し、三重県や滋賀県など美しい星空を求めて観測ツアーに出かけるのが彼らの楽しみ。さらにその美しさを残そうと、澤さんたちは今は写真撮影に夢中だそう。高度な画像処理が施された写真は息を飲む美しさで、思わず星空を眺めたくくなります。他にも、学園祭で満員御礼の人気を博すプラネタリウム公演を小学校や公共施設でも行うなど、天体の楽しみを子供たちにも紹介する活動も行っています。



澤 豊文さん
会長
情報理工学部3年生

120枚ほどの定点撮影した写真を合成して制作するなど、高度な画像処理もお手のもの。「自分たちでソフトを開発中」と大学で学んだ知識もフル活用。

体育会体操部



全日本インカレ出場が目標

体操部は男女合わせて15名が在籍し、アットホームな雰囲気でも活動しています。初心者も歓迎し、先輩やコーチが丁寧に指導するのが部の方針。初心者と経験者ではレベルにも差がありますが、団体戦で好成績を残せるよう練習に励んでいます。現2、3年生の男子の中には、個人戦で戦うことを目指して努力している選手もあり、「僕も個人で大会に出られるよう練習中です」と一井さんも日々頑張っています。



近藤 夕里菜さん
会計
産業社会学部4年生



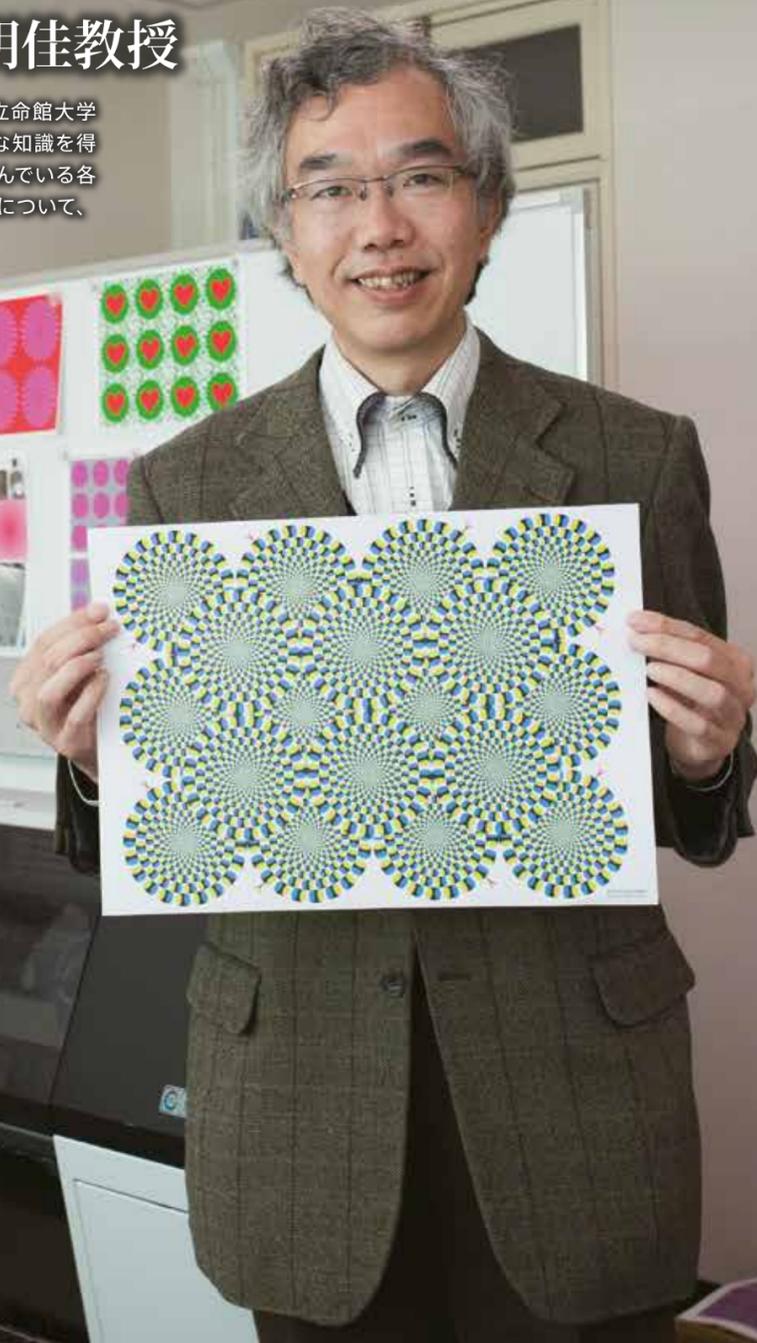
一井 大輝さん
主将
スポーツ健康科学部4年生

「錯視が最大量になると それに比例して デザインも美しいのです」

知への扉 vol.3

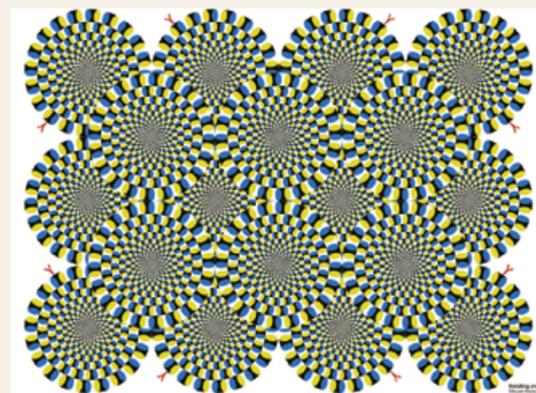
総合心理学部 北岡 明佳教授

様々な分野の研究者である教員が在籍する立命館大学は、まさに知の宝庫。ここで学生たちは新たな知識を得て、蓄え、発展させていきます。学生たちが学んでいる各分野の専門知識や、その知識が導き出す未来について、教員の方々に語っていただくシリーズです。

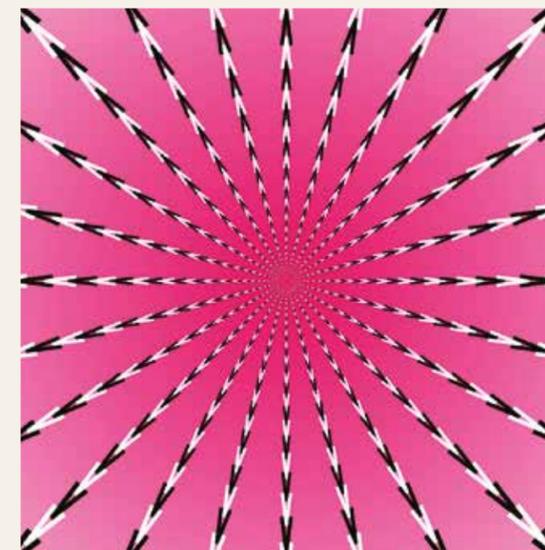


KITAOKA AKIYOSHI

筑波大学大学院博士課程心理学研究科修了、教育学博士。東京都神経科学総合研究所を経て、2001年より立命館大学文学部助教授（心理学専攻）、2006年同教授、2016年総合心理学部教授に。専門は知覚心理学で、とくに錯視・錯覚を研究。「錯視入門」（朝倉書店）、「だまされる視覚—錯視の楽しみ方」（化学同人）、「錯視大解剖」（カンゼン）など著書多数。



上) <蛇の回転>。ぐるぐると蛇が回転し、動画と間違えうほど。北岡教授のWebサイトで大きな画面で眺めると錯視がよくわかる。
<北岡明佳の錯視のページ> <http://www.ritsumei.ac.jp/~akitaoka/>
右) <ガンガセ>は、かのレディー・ガガさんのアルバム<アートポップ>のジャケットに使用された。



回転する、揺れる… 不思議な錯視の世界

紙に出力された蛇のデザインが、ぐるぐると回転して見える!? 目がおかしくなったのだろうかと戸惑ってしまいますが、これが<錯視>。図形などが実際の物理的特徴と違ったものに知覚される現象で、北岡教授の専門分野です。大雑把に言えば目の錯覚であり、実際には目ではなく脳の活動に由来していることが多いそう。では、なぜ静止画が動いて見えたりする錯視のような現象が起こるのでしょうか。「実は錯視の種類ごとに原因があるので、簡単には説明しにくいのです。原因がまだはっきり解明されていないものもありますし、同じ錯視画を見ても錯視が見えない人もいます。それは異常ではありません」。錯視の研究は19世紀頃から始まったと言われてますが、いろいろな測定が可能となった現代では、さらにニューロンや脳の分野からも研究が進んでいます。錯視は心理学の分野に属していることから、いかに心理学が新しい時代を迎えているか北岡教授のお話からもうかがえます。

知れば知るほど、見れば見るほど引き込まれる錯視の世界ですが、その種類を大まかにいうと、同じ長さのものが違って見える<幾何学的錯視（形の錯視）>や、同じ明るさのものが異なる明るさに見える<明るさの錯視>などいろいろなタイプがありますが、その中でもひと際目を引くのが、<静止画が動いて見える錯視（動く錯視）>。特に、北岡教授の作品はインパクトがあり、一度目にとると忘れられません。

自らも楽しみ デザインできる心理学者

「これは錯視の中でも分かりやすいので人気があります」と見せてくださったのが<蛇の回転>。北岡教授は特に、静止画が動いて見える錯視の研究において世界的にも高く評価されており、この作品は1979年に発表後あまり研究されなかった錯視をさらに北岡教授が進化させて、より錯視量が多いものに仕上げたそう。「動いて見える理由は、厳密に言うとはっきり分かっていません。私は眼球運動に関わることが要因だと思っています。この大型の出力機で、大きな図で印刷するともっと錯視が分かりやすいですよ。私のウェブサイトの作品集でも見ることができます」。まだ解明されていないことも多い錯視の研究ですが、今後は視覚や脳の研究と共に発達し、新しい発見が期待されます。でも「私は楽しいからやってる」と北岡教授の回答は明快。「もとは生物学を専攻していて、大学院で動物心理学を専攻し、動物対象の実験の中で錯視を見せた時の反応に興味を持ったのです。現在では錯視画をコンピューターで精密に描くことができ、私はグラフィックデザインも独学で学びました。デザイン性を錯視画に取り入れて、楽しんでもらえるものを作っています。人の生活に役立つことに直結はしないかもしれませんが、研究を楽しむことは大切だと思っています。面白いことに、美しいデザインの錯視画は、錯視量も大きいんですよ」。北岡教授の作品はアート性も評価され、世界的アーティストのCDジャケットにもなっています

父母教育後援会も支援しています

AEDが守った 学生の命

近年、普及が進み、街中でも目にする機会が増えたAED(自動体外式除細動器)。父母教育後援会では学生の命を守るため、いち早く66台のAEDを大学に寄贈しています(2008年度)。これをうけて大学もAEDの整備に力を入れ、現在ではキャンパスのどこにいても3分以内に使えるよう、各建物に1台以上のAEDが配置されています。また、運動中に心室細動が起こることも多いため、すべての運動施設や合宿所にも設置され、設置総数106台と、全国の大学でも例のない整備状況となっています。



学生の命が
救われました

作田 恭子さん 保健師 増谷 佳子さん 看護師

学生の命を守ったAED と保健センターの迅速な対応

2016年5月の早朝、1回生の男子学生が倒れている、という連絡が保健センターに入りました。保健センターに勤務する作田さんと増谷さんは、どういう状況なのか良くわからない中、設置されていたAEDを持って駆けつけました。

作田 「学生は意識がなかったためすぐにAEDを使用しました。幸い、素早く使用して、2回のショックの後、心臓が動き始めたので安心しました。」

増谷 「人が倒れていると戸惑いAEDを使用するかどうか悩むと思いますが、必要がない場合は機械が判断してくれるので怖がらなくて大丈夫です。」

学生は心停止状態に陥っていましたが、二人の迅速で適切な処置により無事一命を取りとめ、現在は元気に復学しています。

◎AED豆知識

AED(自動体外式除細動器)とは、心臓が心室細動に陥った時、電気ショックを与えて正常なリズムに戻す助けを行う医療機器です。心室細動とは不整脈の一種で、心臓の血液を全身に送り出す心室がけいれん(細動)し、血液を送り出せなくなった状態(心停止状態)をいいます。心室細動が起こると、脳などの重要な臓器にも血液が行かなくなり、やがて心臓が完全に停止して死亡してしまう、とても危険な状態です。

AEDは2004年から一般市民も使用できるようになり、駅や公共施設、商業施設などを中心に設置されています。心臓発作の場合、心停止してから約3分経過すると生存率は約50%に下がると言われており、救急車が到着するまでの間にAEDを活用すれば、救える命があるのです。

的確な判断によるAEDでの救命活動

中倉さんは駅の近くで、歩いていた外国人男性が倒れてけいれんする事態に遭遇。「周囲の人は触らないほうが良いと言いましたが、けいれんがおさまると硬直し始めたので危ないと感じて、近くの銀行にAEDが設置されているのを知っていたので取りに行きました。使用は初めてでしたが、AEDの講習を受けたことがあったので、手順に従って行きました。操作方法は音声ガイドもあるので、講習を受けてなくても怖がらずに使うのが大事だと思います」。AEDの使用で男性は命を取り留め、その後救急車で病院に搬送されました。AEDは中倉さんも言うように、操作方法を音声でガイドしてくれるため、簡単に使用することができます。緊急時には勇気を持って活用してください。



中倉 茜さん
産業社会学部
4年生(取材当時)

「オリターでの活動が 大学生生活を支えてくれました」

卒業生 からの手紙

社会に羽ばたき頑張る卒業生たちからの大学時代の思い出と後輩へのメッセージ

予期せぬ事態を乗り越えて 今春からは東京に赴任

副島さんは入学直後に父親を亡くすという、予期せぬ事態に直面。そのためサークルや部活への参加も遅れ、戸惑いながら学生生活をスタートすることに。弱音を吐けない性格の彼を支えたのは、新入生をサポートするオリター活動でした。そんな彼の夢は、人を支える仕事。今は社会人として新たな生活へと歩み始めています。

Voice

九州から出たいという一心で立命館大学に入ったんです(笑)でも1回生の春はみんなと違って、僕は父を亡くし友達作りどころじゃなかった。だから、オリター活動は単純に友達を作りたいと思って、1回生の終わりに入りました。でも、実際に参加するとみんなとても真剣。新入生がどうすれば学生生活に馴染めるかなど、いろいろな企画を考えているんです。僕も気づけば、課外の中心はオリター活動でした。新入生を支える活動が、僕の学生生活を支える仲間との交流になり、最初の不安が嘘のようになっていきました。幅広く交友関係を深めたいと思ったら、オリター活動の参加は後輩にもオススメです。しかも僕は子供の頃から、家では「人に迷惑をかけてはいけない」と教えられていたこともあり、弱音を吐いたり、競争することや強く自分の意見を押し通すことが苦手。でも、オリター活動ではバックグラウンドや考え方の違う学生がまとまらねばならず、3・4回生になりリーダー的な立場に立った時、自分の軸を持つ大切さを学びました。これは自分自身が成長できたとても良い経験だったと思います。それに人を頼ることが苦手でしたが、バイト先の居酒屋オーナーに支えてもらい、家計急変奨学金にも助けてもらいました。だから僕も、人のためになる仕事をしたい。いろいろ乗り越えた学生時代を思い出しながら、頑張っていきたいです。

一通目

副島 康裕さん

soejima yasuhito
2016年3月経済学部卒業
現在、日本生命保険相互会社 勤務
佐賀県出身



京都の味を守ってきた 豊かで美しい水

京都の町家を訪ねると、「うちの水はとても美味しかったんよ」と、今は使われていない井戸を懐かしむ住民に出会うことがしばしばあり、現在も現役という井戸も珍しくありません。実は、京都盆地の地下は大きな水がめ状態になっていて、大量の地下水が蓄えられていることは研究からも明らかになっています。こうした地下水は古くから人々の生活用水として利用されるだけでなく、京都の名物にも欠かせないものでした。

例えば、京料理によく登場する麩（ふ）。麩は小麦粉に水を加えて練って寝かせた後、デンプンを洗い流し、また練って…を繰り返します。そうした工程には大量の水が必要であり、もちろん良質であることが不可欠。また、日本酒もしかり。水が豊かな伏見に、現在は京都の酒蔵が集まっていますが、実は室町時代には洛中に造り酒屋が約350軒もあったと文献に残っており、いかに洛中も水が豊富なかがうかがい知れます。ちなみに、御所（京都御苑）のすぐそばにある造り酒屋では、今も地ビールの仕込みに井戸水を使用。名水で有名な梨木神社の染井と同じ水脈といわれ、まるやかで美味だと言われています。このように、京都の美味しい名物に、名水ありと言っても過言ではないのです。

京都水紀行①

名水が育んだ 京名物

シリーズでお届けする京都水紀行。現在でも市内には数多くの名水スポットがあり、その豊かな水は古くから人々の生活を支え、文化を育んできました。今回はその名水と美味なる名物との関係を探ります。

飲み比べて楽しむ 京の名水散歩

京都の街には今でも名水を汲むことができるスポットが点在します。例えば、京都の台所として知られる錦市場は、江戸時代に魚市場として発展しました。良質で温度が一定な地下水を使い、魚などを保存できたためと言われており、現在も利用されています。その錦市場の東端にある錦天満宮にも、井戸水があり自由に汲むことができます。

探してみると、酒処に近い御香宮神社の伏見の御香水など、昔からの名物のそばには必ずと言っていいほど名水があります。ペットボトルに少しおすそ分けをいただき、自宅で日本茶を飲んでみると、水道水よりまろやかで美味しいと感じられるはずです。これからのうらかな季節、名水巡りをしながら、古都を知るのも楽しいものです。



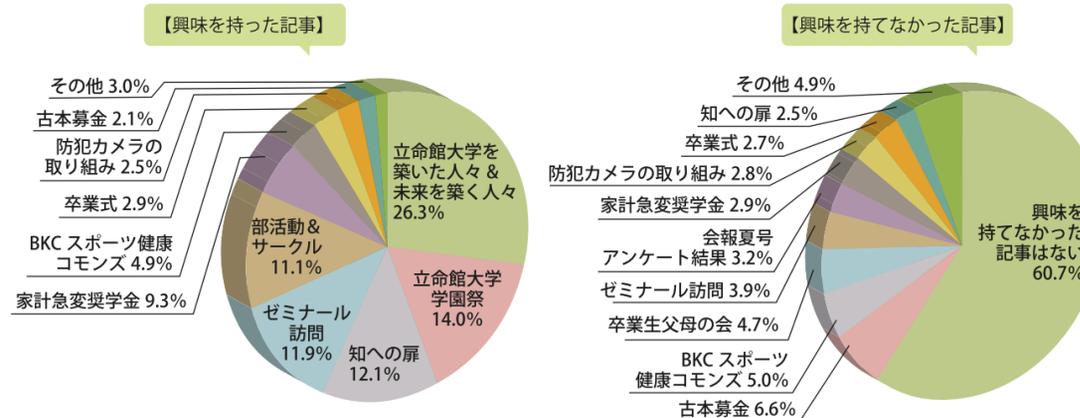
写真提供：
亀屋良長

皆様の^お声^が誌面作りに役立っています

父母教育後援会だよりは年3回お送りしており、毎号アンケートにご協力いただいています。2016年度冬号でいただいたアンケートの結果やご意見を紹介します。

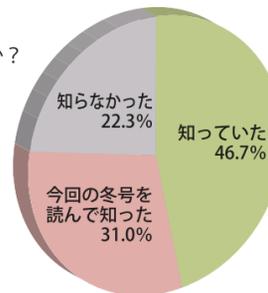


Q. 冬号の中で、興味を持った記事、興味を持てなかった記事を教えてください。

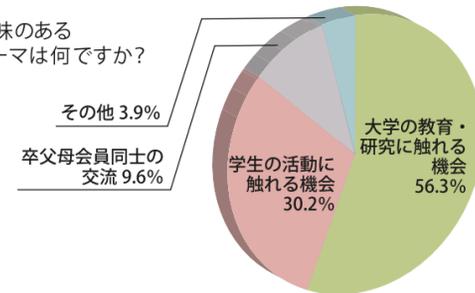


立命館大学を築いた人々 未来を築く人々の特集は、ご子女が通われる大学の歴史がよくわかったと大変好評をいただきました。

Q. 卒業生父母の会を知っていましたか？



Q. 興味のあるテーマは何ですか？



【皆さまからのお声】

学園祭やサークル、ゼミなどの子ども達の楽しい笑顔の記事を読むと親としての心配や不安がやわらぎます。
(静岡、生命1回生、男)

長男が2回生のとき、父親が亡くなり家計急変奨学金をいただきました。退学か休学を悩んだ時期もありましたが、皆さまのおかげで大学へ行かせていただいております。心よりお礼申し上げます。
(京都、法3回生、男)

イグノーベル賞の受賞は、着眼点や発想力の豊かさの賜なのだろうと思いました。このような先生がおられるのは、学ぶ学生にとっても大きな刺激となって素晴らしいことです。
(鳥取、文3回生、女)

息子もあと1年で卒業。息子が卒業したら立命館大学とも離れてしまう…と寂しい気持ちでしたが「卒業生父母の会」というのがあるんですね。立命館大学をずっと応援し続けたので入会します！
(鳥取、経営3回生、男)

立命館大学を築いた人々の記事を興味深く読みました。歴史ある立命館で4年間学ぶことができ娘は幸せでした。
(福岡、文4回生、女)

学食での様子などを知りたいです。一人暮らしなので学食が頼りなのですが、昼は大変混み合っていると聞くので食事ができているか心配です。
(静岡、文1回生、男)

今年はアカデミックウォッチングに参加し素晴らしい体験をさせていただきました。前日には子どもと一緒に過ごし、離れている我が子の様子が分かり喜んでます。
(広島、文2回生、女)

OIC周辺の防犯カメラの設置を、大学が茨木市や警察が協力して進められることを知りとても良いことだと感じました。
(岡山、産社3回生、男)

たくさんのご意見、ありがとうございました。